# 小児の外来診療における コロナウイルス感染症2019 (COVID-19)診療指針

金沢大学附属病院小児科 横山 忠史

KEY WORDS
●COVID-19
●小児科外来診療
●環境整備
●感染防御

## はじめに

2019年12月に中国武漢市に端を発した，新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症(COVID-19)は瞬く間に世界中に拡大し，日本でも2020年２月頃から感染者が増加した。この未知のウイルスに対して，一般の社会だけでなく，患者の診療にあたるわれわれ医療従事者も混乱に陥った。医療現場の混乱は，COVID-19患者に対してだけでなく，COVID-19患者以外の患者に対しても波及し，予定されていた手術が受けられない，定期的な診察を受けられないなどの不利益が生じた。このような医療現場の混乱は，より事態が悪化すると医療崩壊へとつながるため，政治や医療などさまざまな立場から対策がとられてきた。

本稿では，特に小児科の外来において，COVID-19患者の診療，また医療従事者の感染防御，予防接種や健診事業の維持などについて示された「小児の外来診療におけるコロナウイルス感染症2019(COVID-19)診療指針」(以降，「小児外来COVID-19診療指針」)[1]の特徴と要点を解説する。実際の現場に携わる諸賢には，是非，原本を手にとって参考にしていただければ幸いである。

## Ⅰ．小児外来COVID-19診療指針が策定されるまでの経緯

わが国における小児のCOVID-19対策は，成人のCOVID-19患者が発生した頃より開始された。日本小児科学会，日本外来小児科学会などの多数の学会が，2020年初頭よりさまざまな活動を始めていたが，その１つに，尾内一信先生(2019年当時，川崎医科大学小児科教授)の発案で，日本小児感染症学会のメンバーを中心とした小児

Coronavirus diseases 2019 (COVID-19) practice guidelines for outpatient care in pediatrics.
Tadafumi Yokoyama(助教)



SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.